

稲作情報



1号

令和2年3月3日

由利地域振興局農林部農業振興普及課

TEL: 22-8354

NOSAI由利 由利農業共済組合

TEL: 24-3301

JA秋田しんせい 営農生活部 米穀課

TEL: 27-1601

JA秋田しんせい

営農センター

TEL: -

～種子予措について～

来月に入ると、いよいよ令和2年産米に向けて作業が本格的に開始されます。作業の開始にあたり種子予措を行う作業場は十分に清掃を行い、昨年の稲わらや籾殻、粉塵などの病害の伝染源となるものが無いようお願い致します。昨年病害等が発生した圃場がある場合は特に注意をしましょう。

★浸種作業について

浸種作業は以下の条件を確認し、行うようにして下さい。



①水温は10℃～15℃を確保できる4月から実施して下さい。

(特に浸種1日目の水温が10℃以下になると発芽率が低下します。また水温が15℃以上になると発芽が早まるため注意が必要です。)

②浸種期間は積算温度100℃を目安に1週間～10日間程度として下さい。

(水温が確保された状態での長い期間の浸種は発芽が始まる場合があるので注意が必要です。また浸種期間が短いとその後の発芽揃いに影響が出ます。)

③浸種期間中に水の交換を2～3回行って下さい。

(種子に適度に酸素供給をします。)

④品種や消毒方法が異なるものは同じ容器で浸種しないで下さい。

(病害等の発生を防ぐためです。)

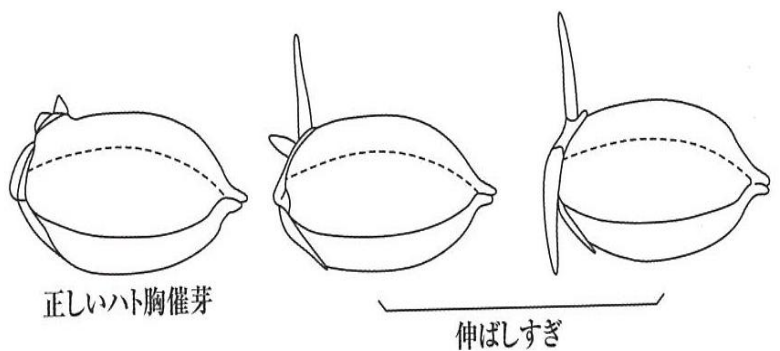
※萌えみのりの浸種※

萌えみのりは休眠性が深いため積算温度は120℃と他の品種よりも高い目安となりますので作付する方は浸種期間に注意しましょう。

★催芽について

①催芽の温度は30℃～32℃が目安となります。芽長は1mm～2mmとします。芽を伸ばし過ぎると播種量のバラツキや播きムラの原因となりますので注意しましょう。

②品種の違いや休眠性により発芽速度が異なりますので種子の状態をよく観察して催芽を終了して下さい。



※循環式催芽機による浸種や催芽は、ばか苗病や籾枯れ細菌病等の発生を助長するため使用前後は機械をよく洗浄するようお願い致します。

★稲作メール配信をご活用下さい

今年も栽培期間を通して栽培技術に関することや気候変動や自然災害への対応策などの情報の配信に努めて参ります。簡単な登録をして頂くだけですぜひご活用下さい。不明な点がありましたら本店米穀課か最寄りの営農センターまでご相談下さい。

